



進学先

## 和歌山県立医科大学 医学部

栗栖 祐喜さん

向陽高校 環境科学科  
映画部 副部長

### 志望校を決めたきっかけや時期は？

**栗栖:** 最終決めたのは、高2の最後くらいです。それまではやりたいことが思いつかなくて。高1・高2の間は本当に全く決まっていなかったです。理学部とか農学部とかいろいろ考えて高2の夏休みにオープンキャンパスにも行ったけど、どこも違うなみたいな感じで。ここに行って何をやるんやろうな、みたいな。将来の職業で活かせる大学行きたいなと思って。で、いろいろ考えていた時にコロナや他の感染症の流行とかもあって、そういう感染症とかについて何か役に立ちたいなと思ったのがきっかけの一つです。それで医学かなという考えになりました。関心もあるし、大学での学びが将来直接活かせるし。で、和医大にしたのは、推薦があって、地元っていうのが大きかったです。働くなら和歌山がいいし、それだったら和医大が一番いいかなと。



### 推薦を最初から想定していなかったにもかかわらず、定期テストで評定を積み上げられた背景には、どんなモチベーションがあった？

**栗栖:** まあ…目の前にテストがあるから(笑)。「やっておくかー」みたいな感じで。どうせやるなら高いほうがいいじゃないですか。全く推薦のことは考えてなくて「点数が高い方が嬉しいから」ってだけでした。

### 高1・高2、そして高3の勉強の進め方は？

**栗栖:** 時間を決めて勉強をするとかは全くなくて。テスト発表の一週間かその少し前から、テスト範囲のところだけ4STEP(数研出版)やリードα(数研出版)とかをやって、テスト発表までには1周終わらせてました。それ以外、普段はほとんど勉強してなかったと思います。部活は週1回程度だったので、いつも家に帰ってから「勉強しようかな」とは思うんですけど、ぼーっとしてました(笑)。宿題があったらそれだけはやっていた感じです。

受験勉強をきちんと始めたのは高3の夏くらいだったと思います。夏休みは1日10時間ぐらいはやってました。ほぼ理科だけ。あとは、たまに数学。英語は長文の参考書を1冊。あと、初めてアカデミーの自習室に来たのも、高3の7月くらい。それまでは「絶対に自習室は行かない」って思っていて(笑)。この合格者インタビューとか、アンケートで「自習室に行かなくても受かりました」って言いたいなと思ってたんですけど。でもさすがにこれで落ちたらシャレにならないなと思って、諦めて自習室を使いました。そしたら家より集中できた(笑)。自習室を使わないっていう変なプライドを捨てて良かったです(笑)



参考書は、学校で渡されたものを中心に進めました。数IIIは青チャート(チャート式参考書<数研出版>)。I A II BCは4STEPと、あと黄チャート(チャート式参考書<数研出版>)から共通テスト用の問題だけ。物理は重要問題集<数研出版>。学校の参考書をまずは終わらせてからと思っていたので。9月末までには絶対に終わらせるって決めてやっていたのが良かったかなと思います。「終わらなかつたらもう終わりや」くらいの気持ちで。



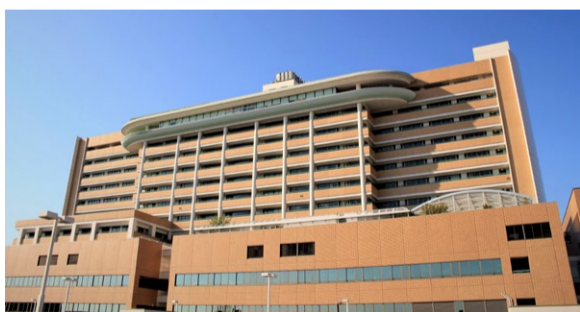
### 学校でのSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の活動について教えてください。

※第69回日本学生科学賞(読売新聞社主催、旭化成協賛)の和歌山県審査において、向陽高校の生徒5人による「2種の外来魚の生息環境と食性調査」が最高賞である県知事賞を受賞。

**栗栖:** 研究では、チームで、紀の川でも確認されている特定外来生物の食性や生息環境を詳細に調査して、地域の生態系保全に資する成果をまとめました。紀の川で捕まえてきて解剖して。胃の中身を全部取り出して顕微鏡とかで見て、この鱗は何の魚だとか、この虫はあれだとか全部一匹ずつ調べました。推薦入試の志望理由書でも半分くらいはこの研究の件を書きました。

## Academy Campusのことについて教えてください。

**栗栖:** ヨッシー(吉田先生)の高1・高2のハイレベル英語(ACクラスライブ授業)は、文法の説明がわかりやすかったです。問題を解く時に「あ、授業でやったやつ」っていうのがけっこうありました。高3の難関大二次対策英語(ACクラスライブ授業)は、英作の対策が良かった。授業中にもまわって添削してくれるから、その場で納得できました。ハイレベル数学(ACクラスライブ授業)もわかりやすかったです。アカデミーの授業が学校の予習になるから学校の授業で全部復習できたし。チャートや4STEPも先に進めることができたので。だから受験生になってすぐに二次対策や過去問対策に取り組むことができました。あと、長沼先生の国語(ACクラスライブ授業)。国語はもともと苦手で、高2の共テ模試でも漢文がひどくて。でも長沼先生の授業で、最終いい感じになりました。授業で使った文法とかを覚えることをまとめられたもの(オリジナル別冊テキスト:「国語攻略本」)を共テ本番にも持っていきました。テキストもイラストつきで、全部まとめて表みたいになっていて見やすかったし。授業でも「ここ覚えてらいいよ」「ここに線引いといて」って、大事なところを教えてくれた。サテラインは高2の夏休みくらいから。亀田先生の化学(代ゼミサテライン講座)。それを高3の9月から10月くらいまで受けました。亀田先生の化学は色を使ってまとめてくれるから分かりやすい。授業の後、全部まとめなおすのは大変ではあるけど、そのノートを見直した時に分かりやすいし、持ち運びやすかったのが良かったです。



荻野先生への天空へのハイレベル理系数学(代ゼミサテライン講座)は、解き方や考え方を一から全部教えてくれるから良かった。応用問題でも「あの解き方やな」って分かるようになるので。あとは、為近先生の物理問題演習(代ゼミサテライン講座)も普通に分かりやすかったです。他は、1Day特講(高3夏に実施分。代ゼミサテライン夏期講習会講座90分4講を復習・定着時間も含め1日で受講する特別講座。)で土屋先生の日本史(代ゼミサテライン講座)を受けたのは、一気にできて良かったです。他の日に社会を少しずつ進める必要が無く、別の科目に振ることができた。あと、速読聴英語は高3の夏休み頃まで受けてけっこう良かったと思います。英文を読むスピードが速くなったので。共通テストの問題形式は初めは全然時間が足りなかったけど、本番に近づいてきたら、20分30分くらい余るようになりました。アカデミーの面談会は高1の時からほぼ毎回来てたかな。志望校がなかなか決まらなかったから、岡先生からいろいろ話を聞きました。



## Academy Campusに来てくれたきっかけは？

**栗栖:** 小学校からずっとGES(小学生部・中学生部)だったので、その流れで。新しいことを習うなら、自己流では無くて先にプロから教えてもらったほうがいいかなと思って通いました。あと、アカデミーは雰囲気が良かった。先生との距離とかも近いし。いい感じに仲良くというか、いい雰囲気で続けられました。

## 後輩へのメッセージをお願いします。

**栗栖:** 高1・高2の時は推薦のことを全く考えてなかったけど、推薦を考えていなくても「使うかもしれない」と思って高1の時から定期テストはしっかり取っておいた方がいいと思います。

## インタビューを終えて

和医大合格おめでとうございます。  
高1・高2の頃は志望校がなかなか定まらず、毎回の面談で将来のことや学部選びについてたくさん話をしてきました。「今やっている勉強が何につながるのか」が見えにくい時期もあったと思いますが、その中でもモチベーションを保ちながら学習に取り組み続けられたことが、今回の合格につながる大きな要因だったと感じています。目の前のことにコツコツと全力で向き合える継続力と忍耐力は、彼の大きな強みです。また、栗栖君は高1の頃からアカデミーキャンパスの授業を本当に上手く活用してくれました。高2の夏からはサテラインで化学をスタートし、高3では数学・物理のサテラインに加えて、ACクラスライブ授業の難関大英語や共通テスト国語など、ACの授業を受験勉強の中



心に据えてくれていました。授業で得た学びを丁寧に復習し、自分の力に変えていった素直さも、合格を後押しした大きな力だったと思います。将来は、感染症などで社会が混乱した際にも地域医療を支えられる医師になりたいという強い想いを持つ栗栖君なら、高校生活で培った力は必ず生きてくるはず。和歌山の医療を守る医師として活躍する日を心から楽しみにしています。これからも頑張ってください。

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司